

# 平成26年度学習状況調査 結果の概要

平成27年2月  
義務教育課

## 平成26年度学習状況調査 結果概況と考察

### 【教科の学習状況に関する調査について】

- 小学校では、ほとんどの教科が「おおむね満足」な状況である。平均通過率が低かった小学校第6学年算数においては、「数学的な考え方」に係る問題の通過率が低いことが、平均通過率に影響を及ぼしている。

小学校第6学年算数においては、式から問題を作ったり、図形の高さについて視点を変えて考えたりするなど、多様な見方や考え方について学び合う場面を一層充実させる必要がある。

- 中学校では、第1学年の国語、社会、理科、英語及び第2学年の国語、英語が「おおむね満足」な状況である。県平均通過率が低い学年・教科においては、既習の知識や概念等を活用して、思考し表現する問題の通過率が低いことが影響している。

中学校第1学年数学、第2学年社会、数学、理科においては、今後も基礎的・基本的な知識及び技能の定着を図るとともに、習得した知識及び技能を活用して課題を解決する学習活動の充実を図る必要がある。

### 【学習の意欲等に関する質問紙調査について】

- 学習に対する意欲については、肯定的な回答の割合が、全ての学年で昨年度を上回って高い数値を示しており、中学校における改善傾向も継続している。
- 授業については、「発表する機会がある」「話し合う活動をよく行っている」「はじめに授業の目標等を立てて取り組んでいる」「授業の最後に振り返る活動をよく行っている」と回答した割合が、全ての学年で高い。

本県では、児童生徒が主体的に学習課題を解決していく探究型の授業がほぼ全ての学校で定着してきている。

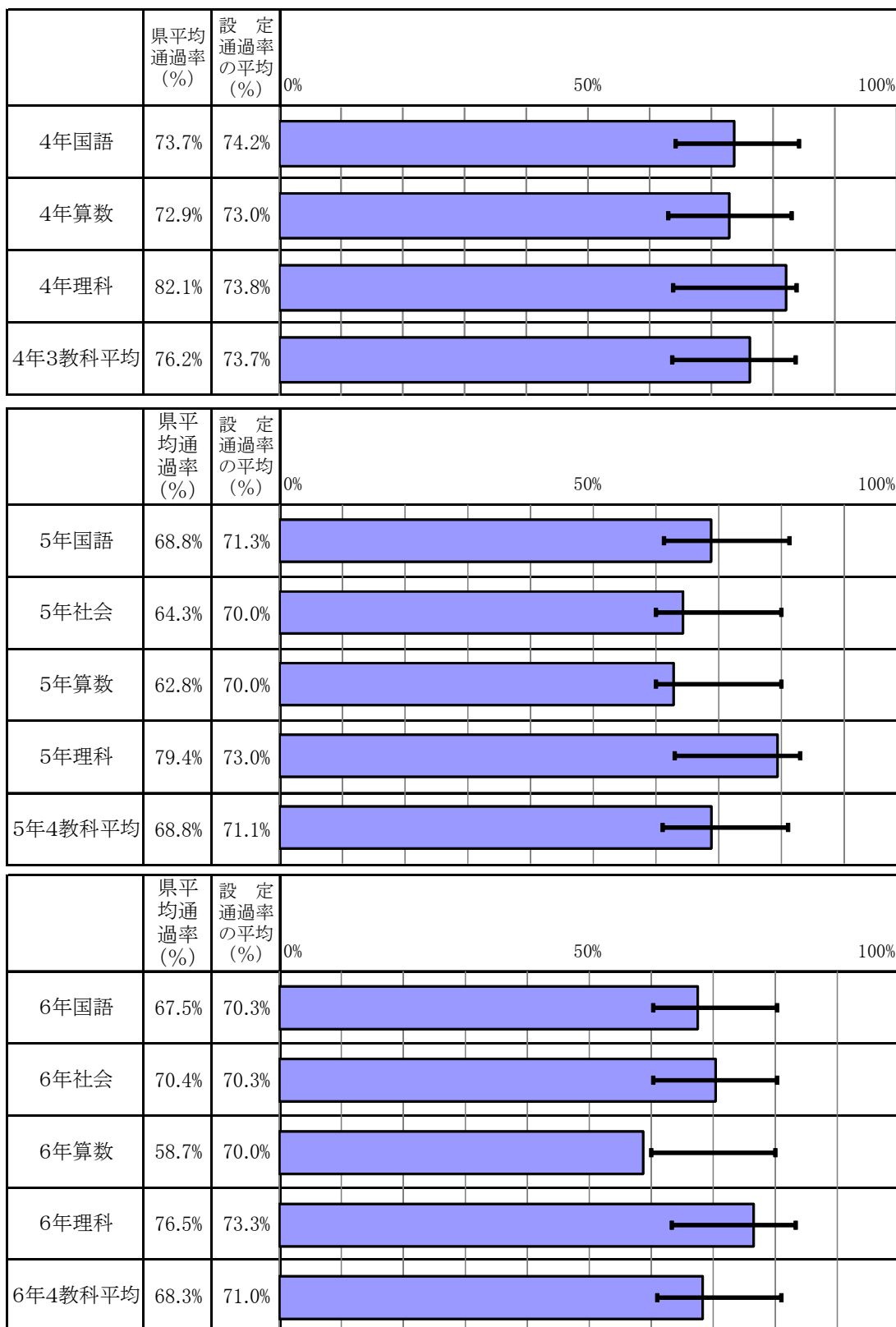
- 生活全般については、昨年度と同様に肯定的な回答の割合が高い。
- 家庭学習の時間については、全ての学年で「全くしない、または30分未満」の割合が低い。
- 読書については、全ての学年で児童生徒の80%以上が「読書が好きである」と肯定的に回答している。また、児童生徒の90%以上が月に1冊以上の本を読んでいる。しかし、図書館の利用回数は、中学生になると大きく減少している。

本県の児童生徒には、望ましい生活習慣や学習習慣が身に付いている様子がうかがえる。特に、家庭学習の習慣はほとんどの児童生徒に定着している。また、全ての学年で月に1冊以上の本が読まれていることは、小・中学校で取り組んでいる朝読書等の取組が要因の一つであると考えられる。教科等の学習においても、場の設定を工夫し、児童生徒が積極的に学校図書館等を利用できるようにすることが必要である。

# 1 ペーパーテストの結果

## (1) 小学校の平均通過率 (グラフの $\blacksquare$ は設定通過率の $\pm 10\%$ )

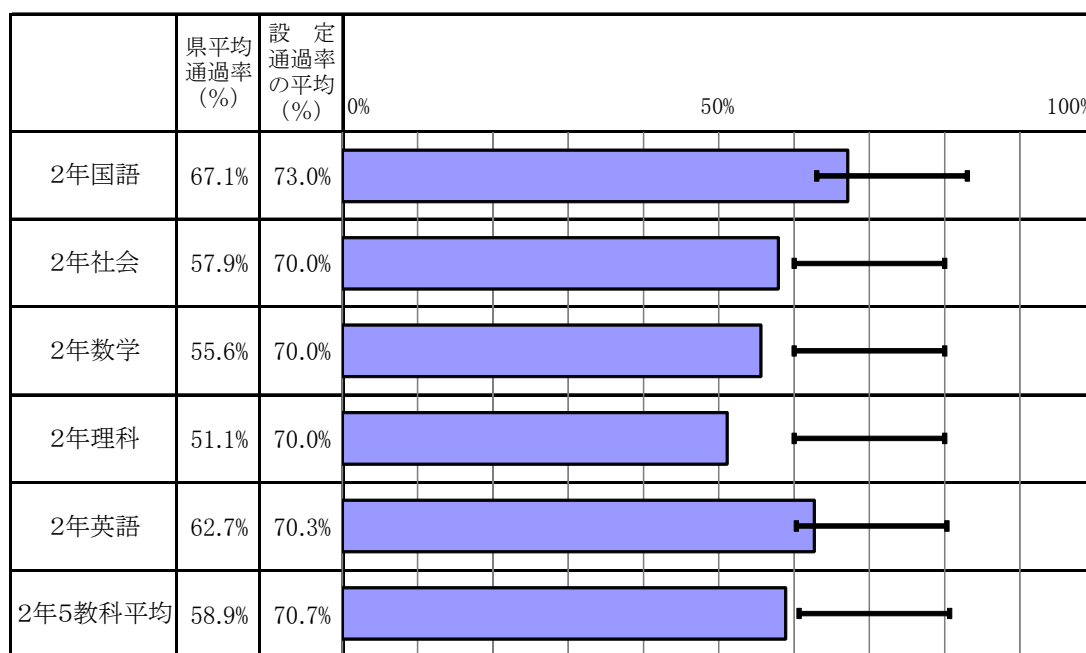
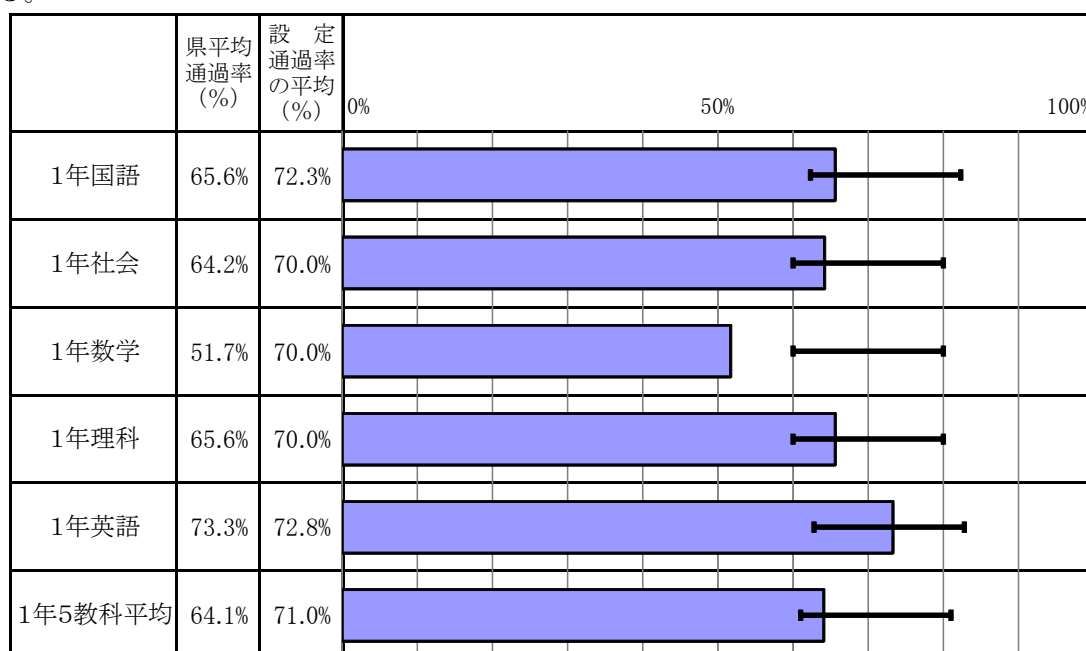
設定通過率の $+10\%$ を超えるか同程度(設定通過率 $\pm 10\%$ の範囲内)を「おおむね満足」な状況とする。



小学校第6学年の算数を除いた学年・教科において、「設定通過率 $-10\%$ 」のラインを上回っており、おおむね満足な状況にある。小学校第6学年の算数では、式から問題を作ったり、図形の高さについて視点を変えて考えたりするなど、特に「数学的な考え方」に係る問題の通過率が低く、県平均通過率に影響を及ぼしている。

(2) 中学校の平均通過率 (グラフの「————」は設定通過率の±10%)

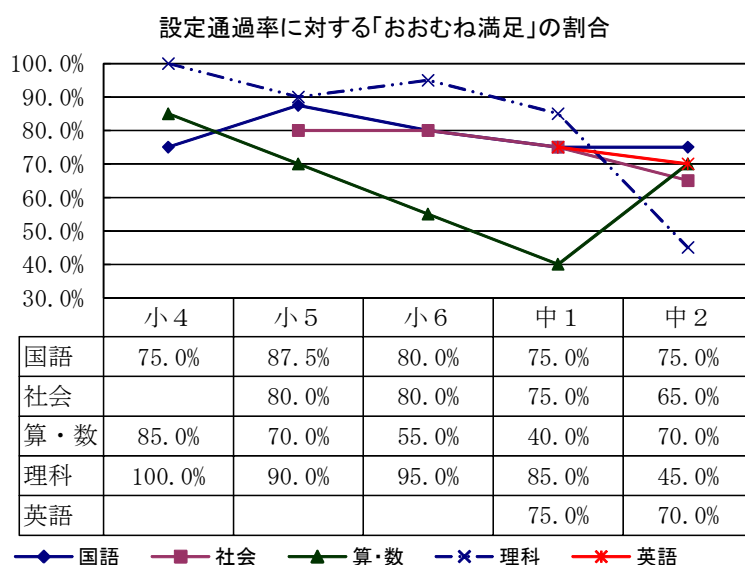
設定通過率の+10%を超えるか同程度(設定通過率±10%の範囲内)を「おおむね満足」な状況とする。



設定通過率を上回った教科は、第1学年の英語のみであるが、「設定通過率-10%」のラインを上回った学年・教科は6つである。また、資料にはないが、昨年度の県平均通過率を上回った教科は、第1学年の国語、理科、第2学年の国語、数学、理科、英語である。県平均通過率が低い学年・教科においては、既習の知識や概念等を活用して、思考し表現する問題の通過率が低い傾向が見られる。

### (3) 設定通過率との比較

設定通過率の+10%を超えるか同程度（設定通過率±10%の範囲内）を「おおむね満足」な状況とする。



「おおむね満足」な状況の設問数の総計及び割合は、400問中297問74.3%である。校種別では、小学校が81.0%（200問中162問）、中学校は67.5%（200問中135問）であり、昨年度に比べ、中学校で改善が図られている。

また、学年・教科ごとに見ると、「おおむね満足」な状況の設問数の割合が、小学校ではほぼ全ての教科で70%を超えている。しかし、中学校第1学年の数学と中学校第2学年の理科では、出題した問題の6割程度が設定通過率より10ポイント以上下回っており、課題が見られる。

## 2 学習の意欲等に関する質問紙調査結果

### (1) 学習全般について

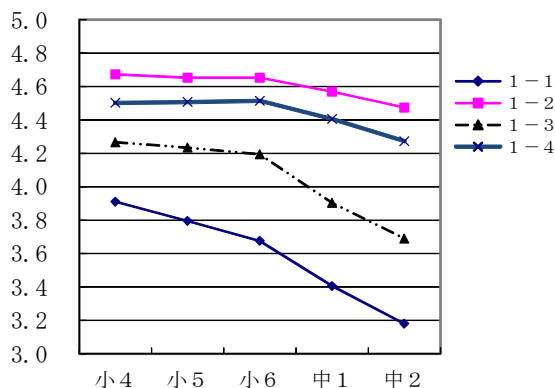
#### 質問項目

- 1-1 勉強が好きだ
- 1-2 勉強は大切だ
- 1-3 学校の勉強がよく分かる
- 1-4 ふだんの生活や社会に出て役立つよう、勉強したい

・右のグラフは、調査項目の回答類型について、次のように点数に換算して作成。

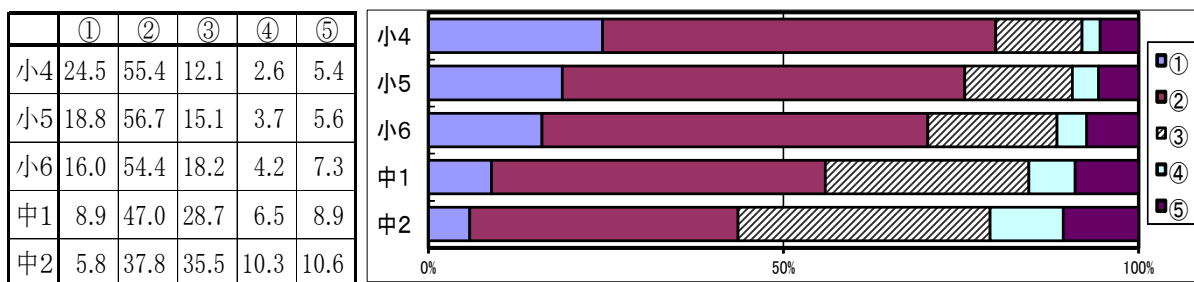
- 「つよくそう思う」…5点
- 「そう思う」…4点
- 「そう思わない」…2点
- 「まったくそう思わない」…1点
- 「分からない・どちらでもない」…3点

#### 5点換算による県の平均

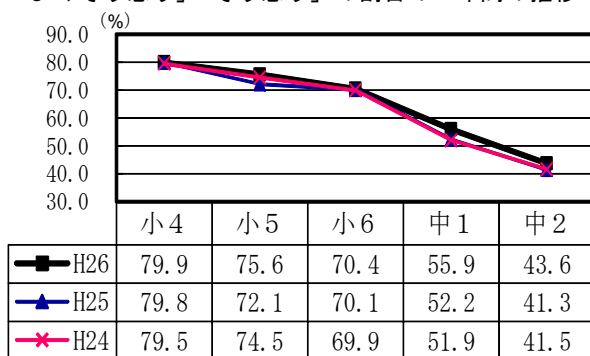


#### [1-1 勉強が好きだ]

①つよくそう思う ②そう思う ③そう思わない ④まったくそう思わない ⑤分からない・どちらでもない



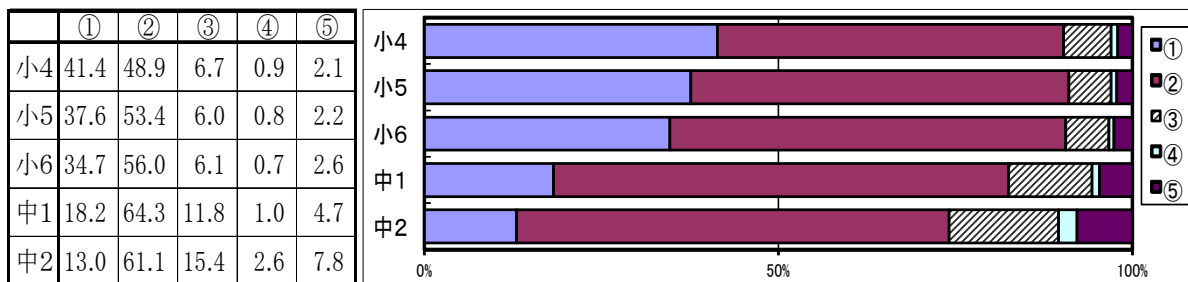
#### 「つよくそう思う」「そう思う」の割合の3年間の推移



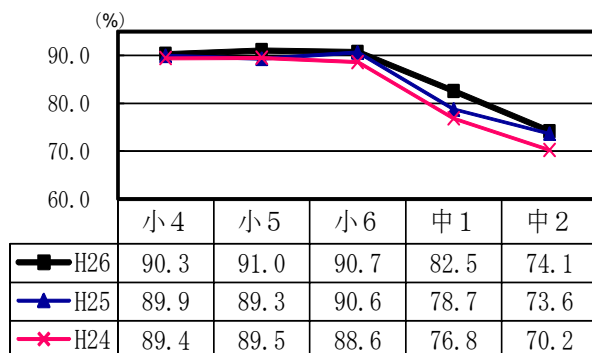
「つよくそう思う」「そう思う」と肯定的に回答した割合が、学年が上がるに従って減少していく状況は依然として見られるが、全ての学年において肯定的な回答の割合が、この3年間で最も高い数値を示している。

[ 1 - 3 学校の勉強がよくわかる ]

① つよく思う ② そう思う ③ そう思わない ④ まったく思わない ⑤ 分からない・どちらでもない



「つよく思う」「そう思う」の割合の3年間の推移



小学校では、肯定的な回答の割合が90%を超えており、30%以上が「つよく思う」と回答している。中学校においても70%以上の生徒が肯定的な回答をしており、その割合も年々少しずつ高くなっている。

(2) 授業について

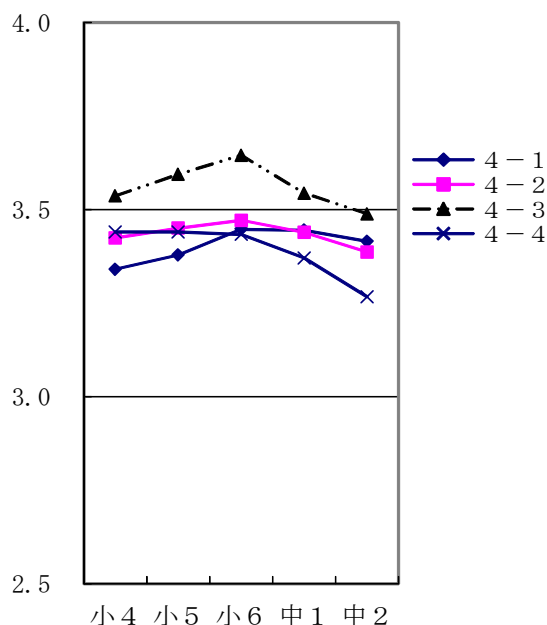
質問項目

- 4-1 自分の考えを公表する機会があると思う
- 4-2 学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていると思う
- 4-3 はじめに授業の目標(めあて・ねらい)を立てて取り組んでいると思う
- 4-4 最後に振り返る活動をよく行っていると思う

・右のグラフは、調査項目の回答類型について、次のように点数に換算して作成。

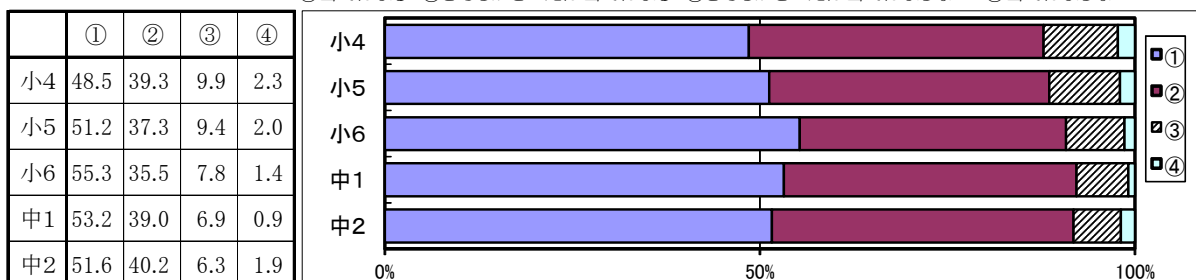
- 「当てはまる」…4点
- 「どちらかといえば当てはまる」…3点
- 「どちらかといえば当てはまらない」…2点
- 「当てはまらない」…1点

4点換算による県の平均

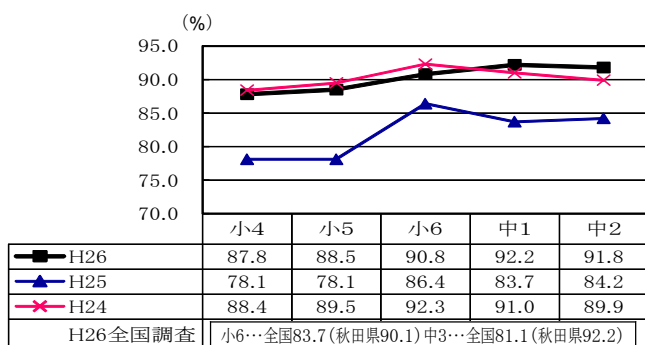


[ 4 - 1 ふだんの授業では、自分の考えを発表する機会があると思う ]

①当てはまる ②どちらかといえば当てはまる ③どちらかといえば当てはまらない ④当てはまらない



「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の割合の3年間の推移

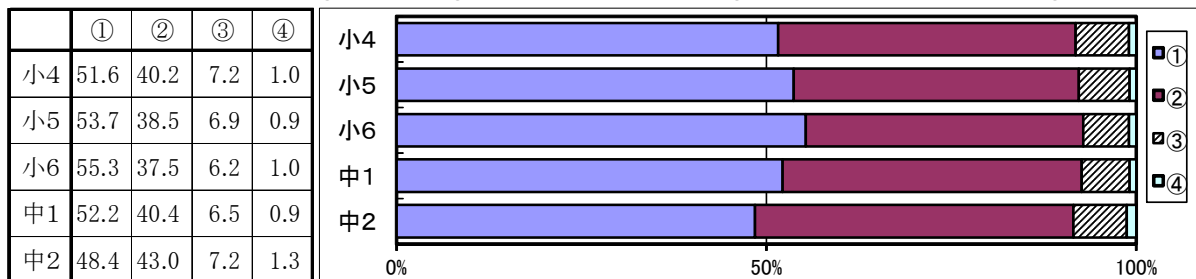


全ての学年において、ほぼ90%が肯定的な回答をしており、全ての学年で昨年度より高くなっている。また、中学校における割合は、小学校に比べて高くなっている。

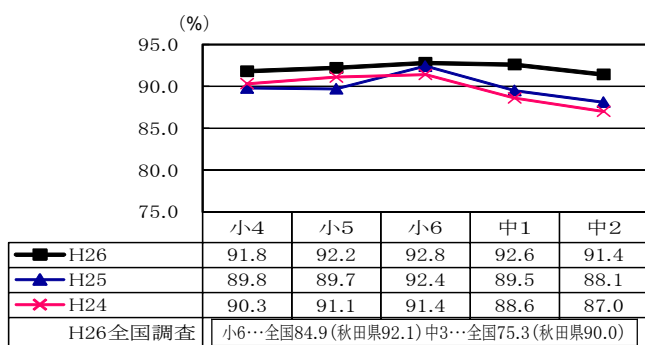
ふだんの授業において、児童生徒が発表する場がしっかりと設定されていることがうかがえる。

[ 4 - 2 ふだんの授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていると思う ]

①当てはまる ②どちらかといえば当てはまる ③どちらかといえば当てはまらない ④当てはまらない



「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の割合の3年間の推移



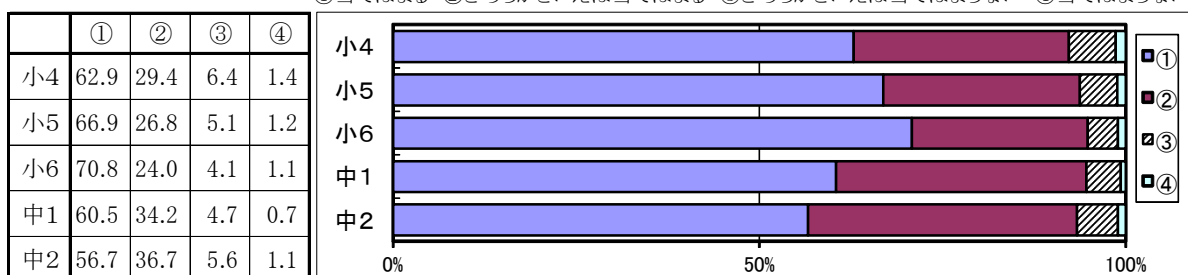
肯定的な回答の割合が、全ての学年で90%以上と高い数値を示しており、中学校では、年々少しずつ増えてきている。

ふだんの授業において、児童生徒が話し合いを行う場面を意図的に設定し、言語活動の充実が図られていることがうかがえる。

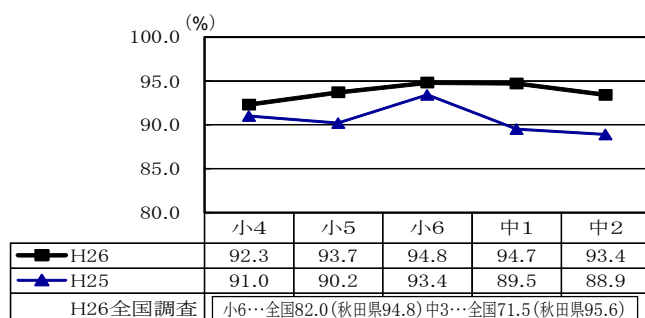


[ 4 - 3 はじめに授業の目標（めあて・ねらい）を立てて取り組んでいると思う ]

①当てはまる ②どちらかといえば当てはまる ③どちらかといえば当てはまらない ④当てはまらない



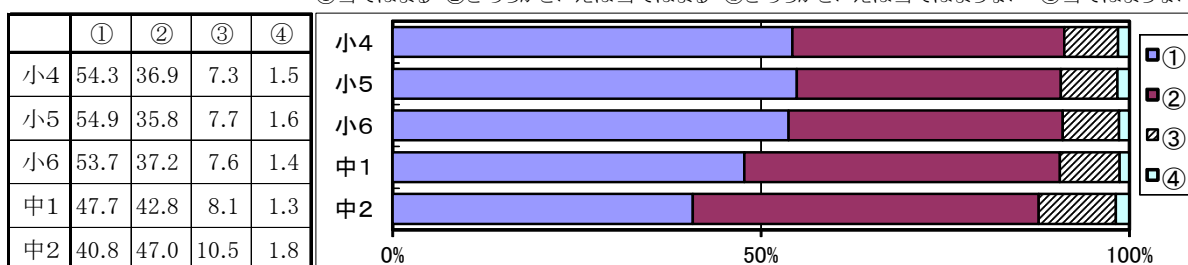
「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の割合



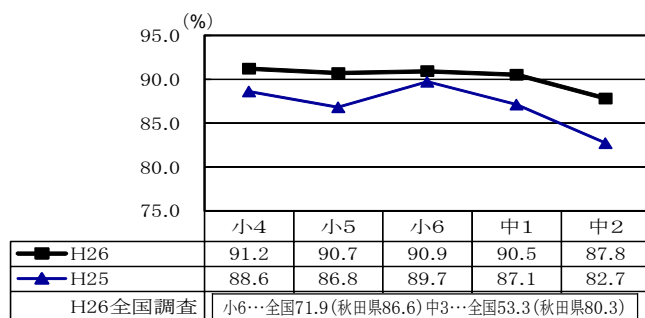
肯定的な回答の割合が、全ての学年で90%以上であり、全ての学年で昨年度より高くなっている。特に、中学校でその傾向が高い。児童生徒が学習に見通しをもち、主体的に学習に取り組むことができるよう導入場面を工夫していることがうかがえる。

[ 4 - 4 ふだんの授業では、最後に振り返る活動をよく行っていると思う ]

①当てはまる ②どちらかといえば当てはまる ③どちらかといえば当てはまらない ④当てはまらない



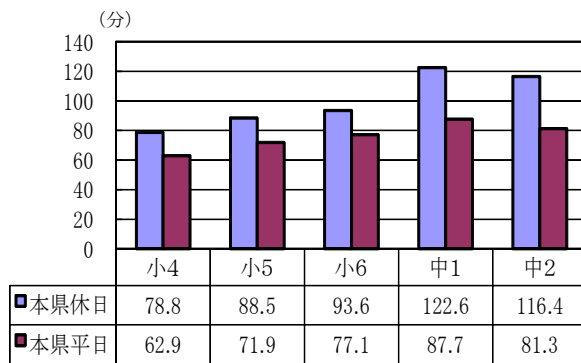
「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の割合



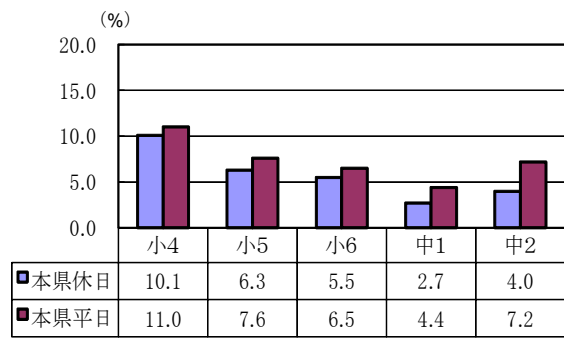
小学校では90%以上、中学校では80%以上が、肯定的な回答をしており、昨年度より肯定的な回答をしている割合が高くなっている。特に、中学校でその傾向が高い。各学校において、振り返りを大切にしたい取組が進められていることがうかがえる。

### (3) 家庭学習時間について

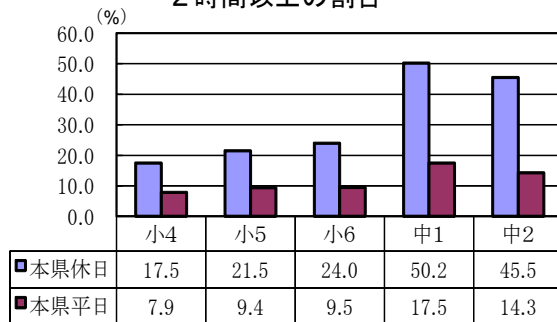
家庭学習の平均時間



全くしない、または30分未満の割合



2時間以上の割合



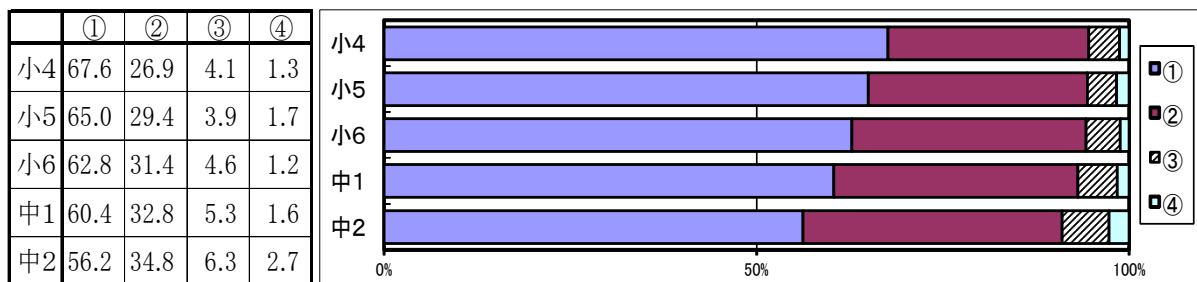
平日の家庭学習の平均時間は、1時間から1時間20分程度である。また、資料にはないが、家庭学習を全くしない、または家庭学習時間が30分未満の児童生徒の割合は、全ての学年で昨年度よりも低くなっており、家庭学習の習慣が一層定着してきていることがうかがえる。

全ての学年において、休日に2時間以上の学習をしている児童生徒の割合が、平日におけるその割合に比べて高く、特に、中学生でその傾向が見られる。

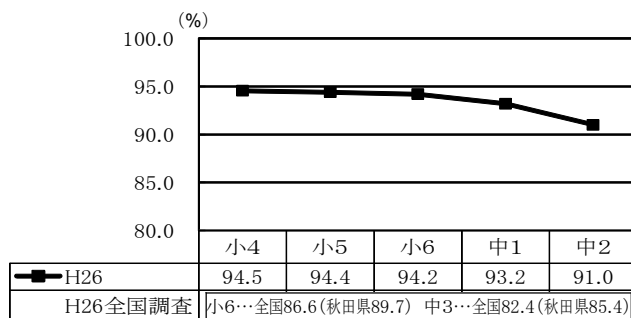
### (4) 生活全般について

[学校が楽しい] ※今年度、新しく取り入れた質問項目

①当てはまる ②どちらかといえば当てはまる ③どちらかといえば当てはまらない ④当てはまらない



「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の割合の3年間の推移

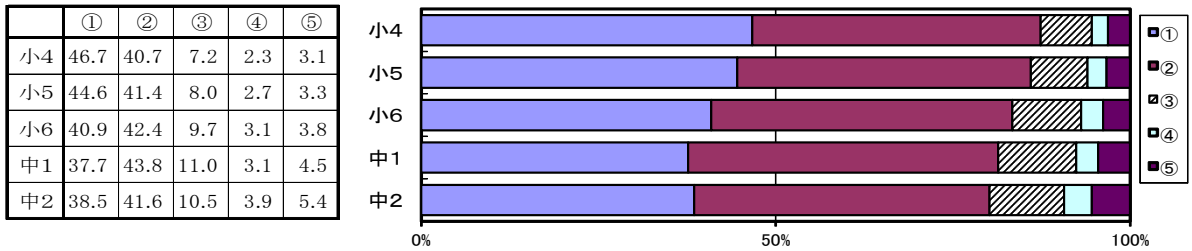


全ての学年で、90%以上が肯定的な回答をしており、そのうち「当てはまる」と回答した割合が、小学校では60%を超え、中学校では50%を超えている。小学校第6学年では、全国学力・学習状況調査の結果より数値が伸びている。

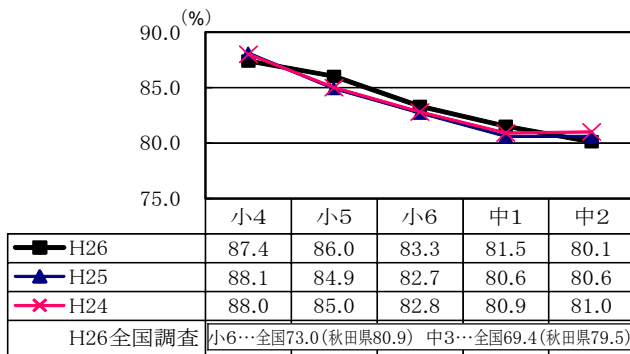
一方、否定的な回答(③、④)の割合が、学年が上がるにつれて増加することも注視する必要がある。

(5) 読書について  
[読書は好きだ]

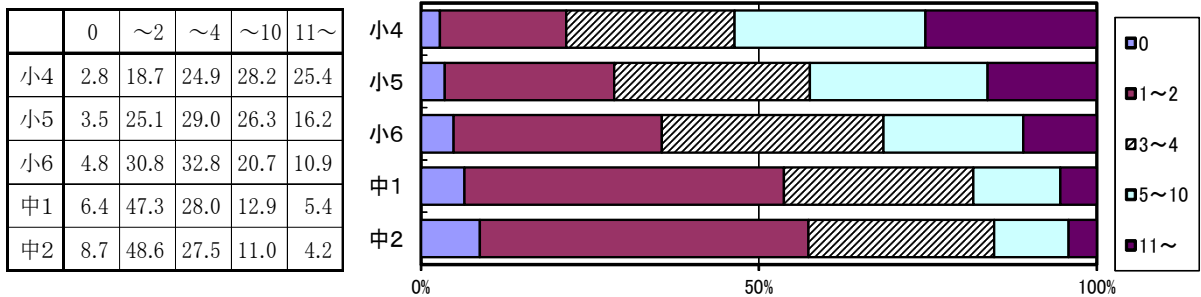
①つよくそう思う ②そう思う ③そう思わない ④まったくそう思わない ⑤分からない・どちらでもない



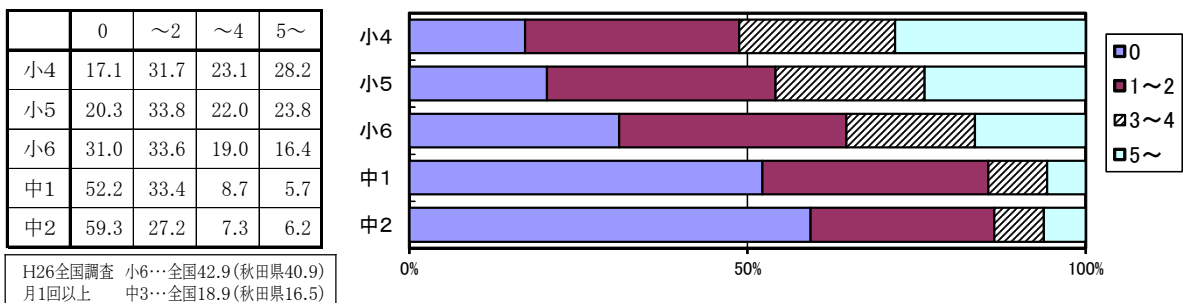
「つよくそう思う」「そう思う」の割合の3年間の推移



[1か月に何冊くらい本を読むか(教科書・学習参考書・マンガ・雑誌や付録を除く)]



[1か月に何回くらい図書館を利用するか]



全ての学年において、児童生徒の80%以上が読書が好きだという意識をもっている。また、児童生徒の90%以上が1か月に1冊以上の本を読んでおり、特に小学校では1か月に5冊以上の本を読んでいる児童が30%以上いることから、日常的に読書に親しんでいる様子がうかがえる。図書館の利用回数については、小学校では月に1回以上利用している児童がおおよそ7割いるが、中学校では月に1回以上利用している生徒は5割を下回っている。

### 3 調査結果の活用と課題への対応

#### (1) 調査結果および報告書の送付

12月の調査実施後、学習状況調査集計・分析システムを活用することにより、全県の集計データを1月上旬に学力向上支援Webに掲載した。各学校、各市町村教育委員会ではそのデータを閲覧し、自校と県平均との比較グラフなどをダウンロードするなどして活用している。また、より見やすい個人票が作成できるよう、個人票印刷用ソフトを配信した。今後は、各教科等の考察を加えた報告書を2月下旬に配信する。

#### (2) 教科に関する課題

学年・教科によっては「おおむね満足」な状況に至らなかったことについて、学習指導要領の趣旨等に基づき言語活動を取り入れた授業を展開しているものの、その活動が思考力・判断力・表現力等の育成に的確に結び付いていない状況が考えられる。授業についての質問紙調査の結果においては、児童生徒が活動の主体となるよう各学校では授業改善を進めている様子が見え、一層適切な手立てを講じることが求められる。

#### (3) 平成26年度における改善の手立て

##### ・学校訪問等による指導

通常の学校訪問のほか、全国学力・学習状況調査の結果分析による各校の課題に対する取組と学習状況調査による検証・改善を支援するため、各学校の要請に応じた学校訪問や市町村教育委員会からの要請に応じた研修会への講師派遣を行った。学力向上推進班が12月～2月に、国語及び算数・数学について9回実施している（実施予定の2回を含む）。

##### ・県の課題の提示

県教育委員会は、各学校が指導の改善に役立てることができるよう、本調査の結果等から明らかになった課題を、1月中旬に各学年・教科ごとに1、2問提示した。

##### ・来年度以降の授業改善に向けた取組の報告

各市町村教育委員会及び各学校は、本調査の結果を基に成果と課題を明らかにし、来年度の授業改善に向けた取組をまとめ、3月に県教育委員会に提出する。

#### (4) 平成27年度の取組

##### ①学力向上支援事業

###### ・学校訪問指導

全国学力・学習状況調査及び本調査の結果分析による各校の課題への取組と検証・改善を支援するため、各学校の要請に応じて義務教育課及び各教育事務所・出張所、総合教育センターの指導主事等が、授業改善のための学校訪問等による指導を実施する。

###### ・教科指導CT養成研修会

地域の教科教育において中核的な役割を担う教員（CT：コア・ティーチャー）による提示授業を基に授業研修会を行い、教科指導力の向上を目指す。

###### ・学力向上支援Web活用

単元評価問題をWebサイトで配信し、基礎的・基本的内容の定着を図るとともに、各学校の授業改善を支援する。

###### ・理数探究体験セミナー

理数系の進路に夢や希望を抱く人材の育成を目指し、児童生徒に算数・数学及び理科の探究的な体験活動をさせるセミナーを実施する。

###### ・科学の甲子園ジュニア秋田県大会

中学生を対象に科学好きの裾野を広げ、理数における思考力・表現力等の育成を目指す。

##### ②あきたの教育力発信事業

・検証改善委員会を設置して全国学力・学習状況調査の結果等を分析し、学校改善支援プランを作成して教育指導に係る提言を行う。

・小・中学校の授業を公開し、県内外の教育関係者によるパネルディスカッションを行うなどの学力向上フォーラムを開催し、一層の学力向上を図る。

##### ③あきた発！英語コミュニケーション能力育成事業

・県内の大学等と連携を強化し、世界に通じる英語力を育成するため、英語教員の指導力向上を図るとともに、児童生徒のコミュニケーション能力を育成する。